

### 《解明での会社回答》

11項：ワンマン運転の拡大に向けた車両の転用・改造及び新造計画、架線レス化及び蓄電池車の導入計画について明らかにすること。

- ・基本はGV-E400に置き換えていく。GVがいいのか、EVがいいのかは検討していく。
- ・架線レスは臨時列車も関係してくるので慎重に検討していく。
- ・中編成で改造しているのは731系。その他は検討中。工場の業務量などを踏まえて検討しなければならない。

12項：長編成ワンマン運転の実施に伴うATO（自動列車運転装置）又はTASC（定位置停止装置）を活用した試験走行の進捗状況と年度ごとの整備・実施計画について明らかにすること。

- ・ATOは山手線のみ。今後は常磐緩行線を検討している。開発段階なので示せるものはない。
- ・実証をした上で導入していく。いきなり無人運転になることもなくはないが、かなりの技術が必要になる。

13項：ワンマン運転の拡大における特別急行列車及び快速列車、臨時列車等の考え方について明らかにすること。

- ・特急はホームドアの位置が違うなどさまざま課題がある。課題を踏まえた上でできるように検証をしていく。
- ・ワンマン拡大は在来線、新幹線は切り分けて考えるべきと思っている。
- ・特急のワンマンについて不安を持っていることは認識している。前広に意見を聞きながら検証した上で判断していく。

14項：現行行っている短・中編成ワンマン運転における旅客対応や取扱い等の変更点について明らかにすること。

- ・基本的には変わらない。
- ・中編成でも乗り越し清算や乗車券購入は運転中は対応できない。取扱いは地方で決めてもらう。
- ・2両+2両でもモニターで確認できればワンマンが可能。ミラーでの確認は2両まで。確認できなければツーマンとなる。

15項：自然災害等の実績が多いとされる線区・区間への導入の考え方について明らかにすること。

- ・ワンマンに関わらず対策は別にしていかなければならない。発生が予測できれば列車を止める考えに変わりはない。

16項：異常時における対応の考え方について明らかにすること。

- ・ワンマンに限らず対応していかなければならない。乗務員だけにまかせるのではなく、関係箇所連絡して支社総体で対応していく。

17項：ワンマン運転の拡大を通じた将来的な車掌業務の変化に踏まえ、変革2027の実現を見据えた車掌要員の変動効果について明らかにすること。

- ・現行の車掌は約5,600人、運転士は約7,300人。国鉄採用者の割合は、車掌が16%、運転士が12%くらい。どのくらい余裕があるかは支社ごとに違うのでわからない。
- ・車掌を担っていただいている方には、他のことができないから辞めてもらうということではないので、これから何をしていくかを考えてもらう。どういう業務を担ってもらいたいかは管理者からしっかり説明していなければならない。

18項：ワンマン運転の拡大及び車掌業務の変化に伴う混み運用の考え方について明らかにすること。

- ・現行でも混み運用はできると考えているが、実施にあたってはさまざまな状況を加味して検証していかなければならない。
- ・ジョブローテーションの中で担務変更としてはあり得るが、1つの行路の中で混み運用を行うには検証が必要である。

**職場と仕事を残す、安全を担保するために闘おう!**